

## [講演要旨] 災害写真—19 世紀末から 20 世紀へ

北原糸子 (神奈川大学非常勤講師)

### \*最近の災害写真史とその動向

明治前半期の災害写真はこれまでの日本写真史のなかで本格的には論じられたことは少なく、漸く最近になって写真史、あるいはその代替メディアとしての石版画などについていくつかの論考が出された現状である。

明治中期にも多くの大災害を経験し、写真が災害メディアのなかで演じた役割が大きかったにもかかわらず、これまで、その歴史過程を取り上げるものはわずかであった。この時期、写真の存在自体が少なく、所在を明らかにする努力が続けられている現状であること、第二には、写真の技術的革新が次々に行われ、その導入を競い合った成果としての写真とそれをめぐる人物についての関心から論じられることが中心であったこと、第三には、写真が社会に定着しはじめると、芸術として写真の視点が優先的に論じられ、災害現場を対象とした写真は、日露戦争のような戦争ジャーナリズムが登場してくるまでは、大きくクローズアップされることがなかったことによる。

本発表では、災害写真を系統的に位置づけ、トピックとなる歴史的な災害における写真の役割を跡付け、災害写真の社会的メディアとしての役割がどのように拡大されていくのか、また、受け手の災害に対するイメージの形成にどのような作用を及ぼすのかについて考察する。取り上げる写真を以下に挙げた。

1. **1885 年大阪洪水** 大阪府『洪水志』にみる石版画、写真帖
2. **1888 磐梯山噴火写真**

中央防災会議による『1888 磐梯山噴火』付録 CD に収録された写真群 (岩田善平撮影 14 点、遠藤陸郎撮影 25 点、国立科学博物館 28 点、宮内庁 21 点、『磐梯山破裂セリ』掲載写真 14 点) このほか、理科大学の地震教授関谷清景、同助教授菊池安による英文の大学紀要である “The Eruption of Bandai-san” (*The Journal of the College of Science, Imp. Univ. Japan* 3, 1889) 収録の石版画 10 点、日本赤十字社の報告写真 38 点の紹介

3. **1891 濃尾地震** 中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」編『1891 濃尾地震報告書』付録の CD 収録の写真を中心に紹介、検討する  
国立科学博物館濃尾地震写真 93 点、宮内庁濃尾地震写真 344 点など。

### \*1923 関東大震災の写真

宮内庁の所蔵する陸軍が撮影した震災直後の航空写真、および震災記念堂 (東京都慰霊堂) 保管の写真類約 3000 点、これらを国土地理院「震災応急測図原図」および震度分布図 (武村・諸井作成) に重ね合わせるデータベースの試作過程を紹介する。